

各 位

2025 年 6 月 4 日
株式会社リットーミュージック

書籍『松尾潔のメロウなライナーノーツ』が 2025 年 6 月 20 日に発売に
300 タイトル以上から厳選した 52 本の 90 年代 R&B 作品を収録！



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）は、『松尾潔のメロウなライナーノーツ』を、2025 年 6 月 20 日に発売します。

本書は、音楽プロデューサー・作家として活躍している松尾潔氏の原点となる、300 タイトル以上にも及ぶ 90 年代 R&B の CD ライナーノーツから自選・厳選して 52 本を収録したものになります。歴史的な名盤から私的愛蔵盤、さらにはベスト盤までのさまざまな作品に寄せられた解説は、資料的な正確さに支えられながらも多彩なアプローチが試みられており、エンターテインメントとしても読み応えのある内容です。また、現地で収録されたアーティストの生の声もふんだんに盛り込まれているので、25 年後の今、「答え合わせ」を楽しむのもスリリングな体験でしょう。

通受けする初期設定と
巧緻なマーケティングの産物



TRACKLIST
1. Rhythm (Intro) 2. On & On 3. Apologies (Others Of The Game) 5. Sometimes (Mix #9) & Next Lifetime 3. After I (Example Mix) & Comedy 4. Leaf Clover 10. No Love 11. Drama 12. Sometimes 13. Comely (Vipped 1.1) 14. Rhythm (Outro)
日本盤発売：1997/04/23

エリカ・バドゥとの接近遭遇、またはメアリー・Jとの奇縁

デビューシングル「On & On」がすでに米ビルボード誌R&Bチャートで首位、続いて発売されたアルバムも同誌トップチャートで初登場2位を記録するなど、元年もよつと輝きを見せるシン・サン入りのメアリー・Jが音楽界の大きな話題となつているエリカ・バドゥ。特徴的らしい「Baduizm」の日本リリースにあたり、女性R&Bシンガー愛好家として知られるケイシー・ロックさんは話を聞いた。(インタビューは97年3月、ロサンゼルス・ザ・モンキーにて)。

ニューヨークに住んでるの知りがたかったよこの人のメアリー・J、キダー・マセレンバークの20数

年次の友人で、それが機でばくは1月のある午後、マンハッタン某所でマッソン・パークとバドゥに会うことになつてたんです。でもその日の最初のポイントだったメアリー・J・フレイシのインタビューが、ずいぶんと遅れちゃいました。

いやいや、インタビュー時間が長引いたんじゃないやなくて、そのスタートが時間すぎたんですよ。理由？メアリー・Jの寛容です(笑)。それで機会ここにエリカに会う予定は飛んだやしません。ばく、翌日の便でどうしても東京に戻る必要がなかったんです。エリカとの対面は泣く泣くあきらめました。こんな事情でメアリー・Jが来る由もないんですが、結局彼女のニューアルバム「Share My World」はリリースが遅れに遅れて、「O」[Baduizm]と同じ日に日本発売されることになったというから図々なもので。

実はその時点で「Baduizm」はまだリリースされておらず、ばくもさつ話した知り合いの家でテスト盤を二度聴いただけだったんですよ。もちろん「O」[Baduizm]は死ぬほど耳に響いてたんですけど、で、その後ようやく「Baduizm」がアメリカで正式にリリースされて、

ばくはその時ロンドンにいて、オックスフォード・ストリートのレコードショップで輸入盤を買ったんですよ。聴いたんですよ。感動したんですよ(笑)。チャイス・FMやキッド・FMといったアップタ系に強いロンドンのFM局やクラブのDJたちと話をしても、必ずエリカ・バドゥばなし。彼女の話を聞かない日は一日もなくて、まさに、トリック・オブ・ザ・タフ、でしたな。

もちろん本音のアメリカで異常なまでに盛り上がっている話を聞いていたし、1月にニューヨークで会い撮れたことを悔やむばかり。ま？ あいや、別にメアリー・Jをのりだんりはしてませんけど、ちよつとはワ

ソロデビュー以来の
ビッグヒットを時代順に



TRACKLIST
1. Never The Match 2. Tiger And The Fox 17. I Wanna Be Good 18. There's A Super Lady 4. A Woman Is Not A Home 5. Give Me The Reason 6. So Amazing 7. Good To Love 8. Sex Man 9. I Really Don't Mean To 10. Any Love 11. Here And Now 12. Filter Of Love (Love Power) (Original) 13. The Best Things In Life Are Free (Classic) 17. Miss 14. Love The One You're With 15. Power Of Love (Love Power) (The Radio Mix) 16. The Hell In Us
日本盤発売：1999/11/14

星は知っている

ルーサー・ヴァンドロスがベストアルバムをリリース！——この報を耳にして雄を翻かれた気分になった方も少なくないと思う。というのも、ルーサーはすでに89年に2枚組ベストアルバム「Greatest Hits」をリリースして以来、このように考えるものすごく自然なこと。90年代に入ってからヒットを集めたベスト盤と集というにかしらん……。

現金ながらそれは当たっていない本作は81年に「Never To Match」でソロデビューして以来のビッグヒットを時代順に並べたものである。全16曲(うち1曲は「Power Of Love (Love Power)」のミックス版)。これはいかにも少ない。先の2枚組が全20曲だったことを考えると、本ベストアルバムはそもそもこれ1

枚ですべてを網羅、的性格のものではないと言えうだ。

つまるところ、マライア・キャリーとのデュエット「Honey」をフィーチャーしてR&B・ソウル・Dのみならず広くポップ市場からの支持を集めた(特に日本ではそれまでは文字通りひと指差うセーブルを冠したという)「前作『Greatest』(84年)を越えてのベストアルバムである。新規のお客さんいらっしゃい、というわけだ。

そういう観点で捉えてみればなかなか立派な選曲ではある。2枚組ベストとの重複曲はわずかに6曲。なるほど、数個のオフ・ザ・トップ・アルバムを出ることをスターの条件のひとつとすれば、ルーサーもまたまぎれもないスーパースターということか。

今年(95年)の6月と7月の第1土曜日に、ばくはルーサー・ヴァンドロスのステージを観た。6月は1Aのハリウッド・ボウル、7月はニューヨークのレイク・ア・スーパードームで、それに加えて6月3日の公演直後に楽屋で対面。翌4日には1時間におよぶインタビューを行うことができたので、ここではその時の模様をお伝えしたいと思います。

何せこれまで来日中止すること数回、未だ日本の地を踏んでいない人物である。そして何よりも中絶生のばくを「Greatest Hits」でR&Bの道に引きずり込んだ本人。以下のレポートで客観性に欠ける記述があるとするれば、それは前述の理由による。この観衆を誇う次第。

まず容姿について、体躯の著しい増減をくり返すことについてはよく知られているが、ばくが会った時はや

持（の林檎）と呟いてみたりした。

これだけビクたなくてもまだスウェット小僧でいつけるというのにはしたもんで。ヤラセろの所に必えて女性ダンサーが腰をクインドすると、すかさず「これだから（お前）王（お前）はやらせられへんア」とワッコミMCを入れるスウェット師匠。この人のエロはいつもニセアがある。考えてみろや「MCオマエは王様」なんて自分の名前を曲名に載りませたベタな曲やっとな、そういつたところもまてのキース・スウェット美男子というところがにやわやわと、日本にいる。

で、その後のステージでスウェット師匠はLSGの精進をアツめたのだ。これにはほくも、マイつたね。日本には三本の矢というコトバもごいですが、にしてもこの組み合わせはちょっときりきりではない。思えばクインシー・ジョーンズ60年のアルバム「Q.J.」に「It's a Good Thing」なる英メロが収められていて、そこは作者でもあるR・ケリーに加え、アローン・ネル、ロナルド・アズレー（アズレー・ブラザース）、チャリ・ウィルソン（ギャップ・バンド）という持ち味の4人が「大エロ絶頂を開闢している」のであるが、LSGとするとアルム1枚まるごとである。

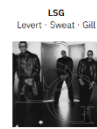
このうちLSGの深い交流についてはよく知られるところ、ばくも各々のライナーノーツ等でもさんざん書いできたので、ここでは多くを語りません。が、しかし、Gについてはちと意外であった。い意味で、コンサートが終わって会場を後にしたばかりは、そのままベニ・オ・アメリカをてくてくと歩いて、消まっていたホテルへと向かった。その1Fにはちよいと気の利いたイタリアンレストランがあるので、ばくはそこでついさっきまでの興奮を反芻しつつ、ワインを飲んでバスタをつまんだり——ま、これは田中康

スーパースターが爆誕
秋の似合う音やナ

LSGのころ、そしていくつかの余談

このプロジェクトについて初めて耳にしたのは、幸運にもキース・スウェット本人の口からだった。

8月6日、ニューヨーク、ラジオシティ・ミュージック・ホール。この夜キース・スウェットはSVV、マータ・キース、フランクリン・ロドリゲスといった若手R&Bアーティストたちを従え、大トリを務めた。ばくがスウェット師匠のステージを見るのは90年の最初の（そして今のところ最後の）東京公演以来だった。あの時は会場になった代々木体育館から観客席にかけてぼど男（！）だらけで、た。まあそれはともかく、97年夏、スウェット師匠は前の半からの絶好調の余波の中にいた。気のせいもMCも絶好調、ヤラセろヤラセろのナステイ・トキはデビューした頃から相変わらずで、そのあまりの凄まじさに、ばくは（全）群衆は維



LSG
Levert・Sweet・Gill

FRANCHISE
1. Door #1 2. Round 8 Round 3. You Got
4. When Did I Go Wrong 5. My Baby
6. All The Times 7. My Side Of The Bed 8.
Carnage 9. Let A Playa Get Into Your
10. Love Me 11. Show Me To Your 12.
Where Would We Go 13. The Check Is In
The Mail
14. 1997/12/15



松尾潔の メロウなライナーノーツ

あまやかな90年代 R&B、
寄り添う珠玉のテキスト。

松尾潔の原点となる自選ライナー52本!

RittorMusic



NEVER TOO MUCH
RITTOR MUSIC



■書誌情報

書名：松尾潔のメロウなライナーノーツ

著者：松尾潔

定価：3,300 円（本体 3,000 円＋税 10%）

発売：2025 年 6 月 20 日

発行：リットーミュージック

商品情報ページ <https://www.rittor-music.co.jp/product/detail/3125317102/>

CONTENTS

第 1 章

女たちよ！

フィリス・ハイマン

ラップにも挑戦、

極めて完成度の高い 1 枚

Phyllis Hyman / Prime Of My Life

シー・シー・ペニストン

今が旬の勢いには

抗いがたい魅力がある

Ce Ce Peniston / Finally

シャニース
待った甲斐があった
モータウン・デビュー作
Shanice / Inner Child

アリソン・ウィリアムズ
前作から一転、
〈歌志向〉を強く打ち出す
Alyson Williams / Alyson Williams

メアリー・J・ブライジ
聴き手の渴きを潤していく、
しっとりとした艶に満ちた声
Mary J. Blige / What's The 411?

ミキ・ハワード
ゴスペルに根ざしながら
独自の世界を確立
Miki Howard / Femme Fatale

ジャネット・ジャクソン
マイケルも嫉妬したであろう、
整然とした音の配置
Janet Jackson / janet.

アンジェラ・ウィンブッシュ
ヒップホップ好きの人にこそ
聴いてほしい
Angela Winbush / Angela Winbush

レイラ・ハサウェイ
声質のみで聴き手を魅了できる
数少ない歌手のひとり
Lalah Hathaway / A Moment

ティナ・ムーア
傑作であります。
ひとことと言うと。
Tina Moore / Tina Moore

ロリ・ゴールド
ブロックス・ビューティーの瞳には
一点の曇りもなかった
Lori Gold / Lori Gold

シャンテイ・サヴェージ
見事なR & B的整合感

その背景には美メロの狩人が
Chantay Savage / I Will Survive (Doin' It My Way)

エリーシャ・ラヴァーン
“慈しみ”の心にあふれた
英日米の合作プロジェクト
Elisha La'Verne / “Her Name Is....”

エリカ・バドゥ
通受けする初期設定と
巧緻なマーケティングの産物
Erykah Badu / Baduizm

エイドリアナ・エヴァンス
ジャズ、R & B、サルサなどの
ミュージック・ガンボ！
Adriana Evans / Adriana Evans

第2章
男たちよ！

キッパー・ジョーンズ
90年度の収穫
突出した出来のソロデビュー
Kipper Jones / Ordinary Story

アレクサンダー・オニール
ジャム&ルイスとの
入魂のコラボレーション
Alexander O'Neal / All True Man

ピーボ・ブライソン
初期の作風を思い出させる
復調著しい歌いっぱい
Peabo Bryson / Can You Stop The Rain

ジェラルド・レヴァート
文句なし、興奮すら覚えた
待望のソロ・デビュー作
Gerald Levert / Private Line

グレン・ジョーンズ
一朝一夕に完成したのではない
この高品質
Glenn Jones / Here I Go Again

キース・ワシントン
熟した男が世に送り出す
新しき傑作
Keith Washington / You Make It Easy

ジェラルド・アルストン
人と人の縁が織りなす
巡りあわせの不思議
Gerald Alston / First Class Only

バリー・ホワイト
プロデューサーを
プロデュースする達人
Barry White / The Icon Is Love

ジェイムズ・ブラウン
J Bは電磁石なんだと
ぼくは思う
James Brown / Living In America

ディアンジェロ
異様なまでの抑えた調子が
虚を衝く
D'Angelo / Brown Sugar

久保田利伸
アメリカ進出第1弾となる
良質のR&B作品
Toshi Kubota / Sunshine Moonlight

ルーサー・ヴァンドロス
ソロデビュー以来の
ビッグヒットを時代順に
Luther Vandross / Greatest Hits 1981-1995

ケニー・ラティモア
そのヴォーカルの色艶、
もう完璧ではないか
Kenny Lattimore / Kenny Lattimore

キース・スウェット
この5枚目のアルバムは
5枚目の傑作アルバム
Keith Sweat / Keith Sweat

ジョニー・ギル
やっぱりジョニー・ギルは

器が違う

Johnny Gill / Let's Get The Mood Right

エリック・ベネイ

R & Bの魅力が

わかりやすく詰まった良作

Eric Benet / True To Myself

マイケル・ジャクソン

MJによるMJイメージと

利き腕DJ達が考えるMJ像

Michael Jackson /

Blood On The Dance Floor / HIStory In The Mix

ローム

ドロリとした古くさを

今っぽい意匠で

Rome / I Belong To You

ジョー

心あるR&Bファンは

彼の活動を支援すべきだ

Joe / All That I Am

ブライアン・マックナイト

“らしさ” と新しさの混淆

際立つR&Bのかたち

Brian McKnight / Anytime

ベイビーフェイス

童顔の巨人氏

アンプラグド初見参

Babyface / MTV Unplugged NYC 1997

第3章

花よ嵐よ！

ハイ・ファイヴ

テディ・ライリーが

見事に切り取った若さの瞬間

Hi-Five / Hi-Five

ガイ

まさに未来を感じさせる

期待に違わぬ1枚

Guy / The Future

レヴァート
もうひれ伏すしかない
これは大傑作！
Levert / Rope A Dope Style

ブレイズ
『What's Going On』以来の
モータウンの良心を見る思い
Blaze / 25 Years Later

サーフィス
洗練された音作りの軌跡、
新曲3曲を含むベスト盤
Surface / The Best Of Surface...A Nice Time 4 Lovin'

アイズレー・ブラザーズ feat.
ロナルド・アイズレー
兄弟3人が再び集った
リユニオン第1弾アルバム
The Isley Brothers Featuring Ronald Isley / Tracks Of Life

バイ・オール・ミーンズ
圧倒的な完成度の高さを誇る
モータウン移籍作
By All Means / It's Real

Lō-Key?
70年代臭を濃く漂わせる
稀有なファンク・バンド
Lō-Key? / Where Dey At?

ジェイド
メロウな側面に注力、
エモーションズの再来
Jade / Jade To The Max

メイズ・フィーチャリング・フランキー・ビヴァリー
とにかく気品がある
媚びは売らねど艶がある
Maze Featuring Frankie Beverly / Back To Basics

ドゥルー・ヒル
4曲の必殺チューンが
彼らへの特別扱いを約束した
Dru Hill / Dru Hill

ボーイズIIメン

通算3作目にして、
最もラジオ・フレンドリー
Boyz II Men / Evolution

トニー・トニー・トニー
デビューから10年、
ソウルの息子たちからの宝物
Tony Toni Tone / Hits

LSG
スーパーグループが爆誕
秋の似合う音やナ
LSG / Levert・Sweat・Gill

エクスケイプ
女性ボーカル・グループの
作品のあるべき姿
Xscape / Traces Of My Lipstick

余情章
人間交差点
『ニュー・ジャック・シティ』OST
NJSあってこそそのNJC
記念碑的なサントラの登場
Various / New Jack City

はじめに
おわりに

装画：遠藤舞

PROFILE

1968 年、福岡市生まれ。音楽プロデューサー・作家。早稲田大学在学中より R&B ジャーナリストとして活動。「ニュージャックスウィング」をいち早く日本に紹介。豊富な海外取材をベースとした執筆活動やメディア出演を重ね、20 代にしてアメリカの業界誌『BLACK RADIO EXCLUSIVE』に「日本の R&B 市場に最も影響力をもつ人物」と紹介される。

久保田利伸との交流をきっかけに 90 年代半ばから音楽制作に携わり、SPEED、MISIA、宇多田ヒカルのデビューにブレーンとして参加。その後プロデューサー、ソングライターとして平井堅、CHEMISTRY、東方神起、SMAP、JUJU 等に提供した楽曲の累計セールスは 3000 万枚を越す。EXILE「Ti Amo」(作詞・作曲)で日本レコード大賞、天童よしみ「帰郷」で日本作詩大賞、JUJU『DELICIOUS 2』(アルバムプロデュース)で日本ゴールドディスク大賞〈ジャズ・アルバム・オブ・ザ・イヤー〉を受賞するなど、ヒット曲・受賞歴多数。著書に小説『永遠の仮眠』(新潮社)、社会時評集『おれの歌を止めるな』(講談社)など。

2010 年にスタートした NHK-FM の R&B プログラム「松尾潔のメロウな夜」(DJ・選曲・構成)は、2024 年に惜しまれつつ放送終了。本書は同番組終了後初めての音楽本となる。

【株式会社リットーミュージック】 <https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド＆レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー＆クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア&コンテンツ事業を展開しています。新しく誕生した多目的スペース「御茶ノ水 RITTOR BASE」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』やTシャツのオンデマンド販売サイト『T-OD』等のWebサービスも人気です。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当

E-mail: pr@rittor-music.co.jp